

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

3頁 子育て中の母親の集い

6頁 聖書講座 旅人の宿なる教会

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



キリストと共に

「私たち、自分の人生のことや、自分が必要と感じていることについて、それがどのように感じられているのか、何が自分に起こったのかなどについて、他人に語りたくなる多くのことがある。このようなことを聞いてもらうことで安心したり、話すことによって自分自身の心に気づいたりするものである。

祈りについても同じ側面がある。

時に、私たちは、愛する友のように神を待ち、耳を傾ける。時に、自分の話に耳を傾けてくれた友にするように、神に対してただ感謝の気持ちで一杯になる。時に、神の偉大さに接し、喜びや畏敬の念に圧倒される。

「私たちは、自分のことや私たちのことを理解してくれる方として神と語り合う必要がある。このことは、キリストと共に生きるという意味でもある。

(写真は、ある会合での祈りのコマです)

11
2002

共同宣教司牧司教訪問

京都南部地区・南ブロック (伏見・桃山・八幡)

九月十五日(日)、司教様が私達のブロックを公式訪問されました。

これに先立って、各小教区ではそれぞれアンケートを行つて共同宣教司牧と小教区の現状について話し合い、さらに何回か合同役員会を開いて、その結果を検討、当日は司教様のミサののち、各小教区の代表が、それぞれの共同宣教司牧についての現状と姿勢を十分話す報告、司教様からそれについてのご意見をいただき、そのあと信徒からの質問を交えて司教様との話し合いの時間を持つことになりました。

当日は天候にも恵まれ、普通の主日に三つの教会に来るほぼ全員、二百名余りが伏見に集まりました。司教様はミサ中の説教で、共同宣教司牧について話され、当日の聖書朗読の箇所にも触れて、洗礼を強調されました。

各小教区の報告では、共同宣教司牧がまだよく分からぬ、また

程度の差こそあれ、どこでもまだ、それぞれの共同体のなかのレベルでも、共同して信仰を生きることろまで行つてないことが指摘されました。各自の見方の多様性を共同性にまで高めていないのです。

そのあとの司教様のご意見と質問へのお答では、宣教が、受洗者を増やすことよりも、社会を福音化すること、言葉と行いで福音を社会にもたらす信仰の共同体を成長させること、また、共同宣教司牧が目指しているのは、合同してやることではなく、共同で、みんなをみんなで高め合うこと、こうして、教会を世にある神の愛の証として成長させることであると指摘されました。

さらに、旧約の時代から、神の民として選ばれたということは、それで安心することではなく、選ばれるという恵みのあることを社会に証し、その恵みへと拓くこと、それが、すべての人を救うために、歴史そのものを導いて下さる神のやり方であること、人間の目にはそれが、ほかのやり方もあるように思えても、これが神のやり方であること、その意味でも信仰を共同して生き抜き、証しなければならないこと

神学生合宿の報告

八月三十日から九月一日にかけ

て神学生合宿が長野県のベネディクト会の黙想の家を中心に二泊三日で行われました。参加者は神学生一名、養成担当司祭二名、青年二名、計五名でした。

一日目の分かち合いはルカ5・1～11（ペトロ達の召命）を行い、お互い心に響いた部分や自分が思ったこと、質問などを出し合いました。この一度の奇跡で弟子になる

ことがなぜできたのか、など核心に触れる質問も出されていました。二日目は午前中はドミニコ修道会（高森草庵）を訪問しました。「トロ（に出てくる風景）のようだ」との声があがっていましたが、藁葺き屋根、薪ストーブといった昔ながらのたたずまいの建物が数軒並んでいました。ここでは宗教家同士、よいものをめざし真摯な交流が行われていることを象徴するようなものがありました。それは訪問者が母国に帰り、この像を造り送ってくれたそうです。

午後は入笠山へ登山を行いました。約三十分後、頂上へ皆たどり



鶴山進栄（京都教区神学生）

着くことができました。その日は天候に恵まれ諏訪地方一帯が一望できました。

夜はミサについて、「ミサとは」

「ミサに参加することは、どんな

意味があるのか」「どのような恵みを体験しているのか」というテー

マに従って分かち合いを行いました。

「ミサに参加することは、どんな意味があるのか」「どのような恵みを体験しているのか」というテー



子育て中の母親の集い

京都南部南ブロック

(宇治・青谷・田辺・精華)

すべての家庭のために共に祈る
具体的問題と関連の聖書箇所、
または日曜のミサ朗読箇所のわ
かち合い

*集会中、子供たちはボランティ
アと一緒に

宇治・青谷・田辺・精華の共同
宣教司牧地区の宇治教会で、「子
育て中の母親の集い」が開かれて
います。ことの始まりは、日曜学
校担当の若いお母さんたちが中心
になって「子育てと子供の信仰教
育」をテーマに講演会を企画した
ことからです。

そのときすでに「日曜学校担当
者会」で司祭と共に教材研究がな
されていました。そのような折に
実際に子育てをする中で直面する
困難、子供の信仰教育に関わる戸
惑い、疑問などが出来ました。そこ
で、長年学校教育に携わってこら
れたノートルダム・ド・ヴィのSr
伊従信子さんを招いて、「子育て
と子供の信仰教育」と題して、子
育て中の母親たちを対象に講演を
開こうということになったのです。

その講演でシスターは、「子供
ではなく、親が自分の信仰を見直
すことでもある」「日々の生活の
出来事（子供の問題をふくめて）

を信仰のまなざしをもつて生きる
重要性」、「もう遅い」ではなく、
今から始める「ことの大切さ」など
を強調され、多くの参加者の心を
動かしたようです。集会後、自分
たちの抱える困難・戸惑い・疑問
を信仰のまなざしで捕らえ自分た
ちの信仰を育てていきたい、その
ためにこのようない定期的に持
つことはできないだろうかという
声が出てきました。次の教会を担
う世代、若い母親の世代の信仰教
育の必要性を感じながらも、ほと
んど手付かずでしたので、このよ
うな参加者の希望は、若い世代か
らの率直な声として、教会の中で
も積極的に評価され、早速教会役
員会で取り上げられ、シスターに
クラスの定期的開催を依頼するこ
となつたのです。

*毎月一回（土曜日午後一時より
三時まで）

*内容：具体的な問題を通してキ
リスト者の生き方の本質に迫る
家庭内の平和・交わり、世界の

目的は、わたしたちが福音宣教
する共同体になることにあるとい
われます。それならば、わたした
ちにとって根本的に必要なことは、
わたしたちがキリストの福音に触
れ、それを日々の生活のなかで、
つまり家庭生活のなかで、子育
てのなかで、地域社会とのつながり
のなかで、いかにダイナミックに、
また地道に生きるということなし
にはありえないのではないでしょ
うか。そのような中で、「子育て
中の母親の集い」は、現代社会の
必要に即した信徒の信仰養成のひ
とつの試みとして評価されるので
はないでしょうか。

現在この会は、共同宣教司牧の
四つの教会にも開かれ、ガールス
カウトの団員の母親の方も参加し
ておられます。また子育てを終え
られた方々で、今度は孫の信仰教
育に関するものとして参加されて
いる方もあります。クラスの間、
ボランティアの方が子供たちを預
かりますので、お母さんたちは安
心して参加することができます。

宇治・青谷・田辺・精華の共同
宣教司牧地区は、京都司教区の中
で、最後に共同宣教司牧になった
地区のひとつです。共同宣教司牧





福音センター
ニュース

～主ご自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなしい～（詩編 121・1）

新しく結ばれた人にとってマイホームは大きな夢ですが、残念ながらわが国で家をもつのはたやすくありません。今は金利が安いからという口車にのせられてマンションを購入しても、先行き不安なこの時代にローンはずっしりと重くサラリーマンの肩にのしかかります。

ところでこれほど大変な思いをして建てた家で、家族はいったい何をめざすのでしょうか。家族の健康と安らぎ、子供の教育そして昨今の家庭であれば夫婦の自己実現というのも入るかもしれません。しかしちょっと目を転じて旧約の世界を見ると、家の大きな役割のひとつに宗教教育というのがありました。神から受けた過去のめぐみを想起し、やがて来られるメシアを待ち望むことを人々は家庭のなかで綿々と伝えていたのです。

今、日本で呼ばれている「心の教育」ではいったい何を伝えていくでしょう。もしもその根幹に、人間を超えた何ものかに向かって手を合わせる大人たちの姿が家庭にないならその「教育」は文字どおり空念佛になりかねません。

やがて待降節が始まります。今年は「幼いイエス様を待つ」ことを家族共通の出来事として挑戦してみてはいかがでしょう。

2003年 結婚講座ご案内

第20回 日程 1月25日、2月8日、2月22日

第21回 日程 7月12日、7月19日、7月26日

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター
電話 075-822-7123 Fax 075-822-7020 E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp



人はなぜ結婚するのか 人はなぜ結婚することが必要なのか

.....「生への冒険」(P.トゥルニエ)

「結婚とは正直さの大きな冒険であり、このことが結婚にゆたかな人間的価値を与えてくれるのである。」結婚は、夫と妻がうそをつき合ったり、なにかをただ隠したりするだけで、もう冒険ではなくくなってしまう。ときにそれは争いを避けようとする立派な意図から出ているのである。だが彼らの結婚生活は、どんよりした薄明の中にぼけてしまうかも知れず、二人とも生活をただの惰性に、しまいには倦怠にしてしまう恐がある。反対に二人がお互いにいかにからでも、また透明になろうという勇気をもつと、その時から彼らの結婚はまた豊かな冒険となるのである。彼らは新たに成長し、かつて平和と引き換えに避けて通ろうとした相互に適応すべき諸問題に取組み、多くの偏見から解放され、二人とも自分自身を超えて行くことになるはずである。

神が『人はひとりでいるのはよろしくない』(創2:18)と言われたのもこのためである。人はひとりでいると、冒険精神を急激に失ってしまう。彼はこちこちになり、やがて自分自身について幻想を抱くようになり、自分に対するうそを言うようになる。彼が自分自身を知ることを学ぶのは他人との出会いや、真摯で深い対話の中でである。それは心理学者の書斎で起こるかもしれないし、夫婦の差に向かいの中で起こることかもしれない。心理的治療は一時的なものだが、結婚は一生続くのだ。そして、結婚は夫婦のおののが成熟することを促すと同時に彼らの結合を強めるような、絶えざる冒険の更新の貴重な手段であるのだ。

P.トゥルニエは、結婚生活を「人間に与えられた大きな冒険」の一つととらえ、しかもそれが「絶えざる自己発見や自己超越のまたとない」契機を含むものであると考え、そうした発展の条件を「お互いが自分のうちから、うそ、偽りを遠ざけて透明度を増す」ことに求めたことに私は驚いた。(「今を生きるキリスト者」工藤信夫著より)

人はみな本心、深いところで自分自身の透明度を増したいという願いをもっているのではないでしょうか。

好きになると 好きになると すべてが美しく 陽の光にあふれる	野に咲く花 小鳥のさえずり ボプラ並木 小川のせせらぎ	山の牛 子どもの絵 親しい友 解放したドア 客のもてなし 病気の人への見舞いの花 ほほえみ 教会のなかの静けさ 人生はお祭りになる 単純なありふれたことが 好きになると――	好きになると 好きになると すべてが美しく 陽の光にあふれる
好きになると 好きになると すべてが美しく 陽の光にあふれる	野に咲く花 小鳥のさえずり ボプラ並木 小川のせせらぎ	山の牛 子どもの絵 親しい友 解放したドア 客のもてなし 病気の人への見舞いの花 ほほえみ 教会のなかの静けさ 人生はお祭りになる 単純なありふれたことが 好きになると――	好きになると 好きになると すべてが美しく 陽の光にあふれる

聖書講座シリーズ「一〇〇匹の羊の群れ」7／17・18

旅人の宿なる教会

諏訪栄治郎 神父



ジャバゆきさ
んといわれたフィ
リピン女性との
出会い、ボート
ピープルとして
ベトナムから來

た難民神学生との出会い。この二つの出会いは、私によその国に来て不安定な状況の中で生きることの辛さをどのくらいわかっているのかという問題を提起しました。

私も少しの間ですが、フィリピンに行き、言葉の通じない暮らしを経験しました。ですから外国から来た青年達が、仕送りをし、生きていく、そうしているうちにオーバーステイになる。どんなに不安な生活でしょうか？ このような方がたくさん日本におられます。

国内でも色々な事情から家族と離れて生活している人、仕事を求めて都会に来たけど仕事が探せず、

お金も使い果たしホームレスになつた人という場合です。公園で、駅で生活しようとすれば役所から、地域の人々から追い出される。このような旅人はどこで安心すればいいのでしょうか。

教会の中でもありますね。長崎の青年と結婚して三十年たつて洗礼を受け、彼の家に行って洗礼を受けたことを報告した時、ニコッと笑い、初めて口を聞いてもらえたというご婦人がいました。教会の中にもそうした「よそ者」の考え方、未洗者を家族として認められないという状況があるのです。

社会活動神戸センターに、来日した、父親も亡くなった一人ぼっちのブラジル人の青年が来るのでが親切や」と言います。一般の人々の目は冷たい、居場所がないと言います。こうした状況の中で教会は何を考えるのかということです。

「旅人」に対して、お互い人間の体験、イザクの体験から難解

い、反対に「ややこしい人がいる」という状況で見続けてしまいます。旅人という時、私達は本当に不安定な状況におかれている人々がたくさんいるということをまず知つておくべきです。そして現在、外国人住民基本法、これは外国から来た人々を日本人と同じように大事にしてほしいという法律案ですが、実際はまだ受け入れられていません。外国人が住みにくい国は日本人にとつても住みにくく國になつているのかもしれません。

この人々が頼りたい場所の一つとして教会があります。その教会がどのように対応していくのかとどうなことを問題提起したいと思ひます。申命記、レビ記にゲール（寄留者）をどのように受け止められるかということがたくさん書かれています。この旧約の神学者達はゲール法という法律を作ります。

神の業というものは大きなことをして世の中が変わるものではなく、小さなことを始め、それを積み上げていくことで世の中が変わっていく、神の業は「小さな人」をして私達に「何かおかしい」とおいて私達に「何かおかしい」と気づかせてくれると思うのです。ゲールに対しても助けてあげるという哀れみでもなく、彼らは、私達に「広い場所」に招きだしてくれるのである。

神の国というのは「広がり」であるということが、言えるかと思ひます。ゲールを通して、私達はみんな旅人である、広い場所に出る、という考え方が基本だと思います。

創世記二十六章には、ゲールとしてのイザクが生活が豊かになったことを嫉まれ、移動させられ移り住もうとした場所で、井戸をめぐりことごとく争いが生じ、寄留者は生きていけないという状況が起ります。しかし「彼らは広い場所に出た」と書かれています（一二二節）。それは場所としてではなく交わりとしての「広がり」ということだと思っています。

な問題であつたことがわかります。

創世記二十六章には、ゲールとしてのイザクが生活が豊かになったことを嫉まれ、移動させられ移り住もうとした場所で、井戸をめぐりことごとく争いが生じ、寄留者は生きていけないという状況が起ります。しかし「彼らは広い場所に出た」と書かれています（一二二節）。それは場所としてではなく交わりとしての「広がり」ということだと思っています。

こんなにちゆシスター

ヌヴェール愛徳修道会
深草修道院

Sr 中原和子
(写真右)
Sr 安藤敬子
(写真左)



私達の修道院は一九九四年、京阪藤森駅に近い庶民的な地域で、次のような望みをもって発足しました。

1 社会の現実を肌で感じながら、地域の方々と共に生きることを学ぶ。

2 地域の方々の中に、主イエス・キリストの救いのよろこびが伝えられることを望む。

3 キリストのみ跡に従って生きるわたしたちの共同体が、特に貧しい人々、生きることの意味を探し求める人々に開かれた場となることを望む。

現在二名の姉妹がここで共同生

活をしています。ひとりは聖母学

院幼稚園に勤務。幼い子どもたちが命の大切さを知り、その素直な心にまかれる神の愛の種が日毎に成長していくのを見守るとともに、保護者のさまざまな問題をしっかりと受け止めながら、その喜びと苦悩とともに生きるようつとめています。一人は、滞日外国人労働者を支援する京都YWCA AP

T (Asian People Together) のメンバーとして取り組んでいます。病院や行政機関への同伴・通訳、孤独に生きる彼らとの個人的ななかかわり等々。また学校関係者や社会人と一緒に週に二度聖書を読む機会を持っています。

こうしてそれぞれが使徒職の場で頂く宝を分かち合い、とともに祈りのうちに、人間を抑圧するものに心傷つき、命を回復させるために情熱を傾けてくださる御父のみ心の愛の觀想から力を汲み取りながら、極みまでご自身を与え尽くされた主イエスに一致して歩み続ける毎日です。「愛以外のいかなることにも、決してかかわってはなりません。不幸な人々以外のことに、決して関心をもってはなりません」という創立者の思いを深く心に刻みながら。

福祉の窓

デイサービスセンター
真愛の家

当センターの母体施設である「寿荘」は、一九六八年五月、当時のレデンプトリスチン女子修道会によって京都府最初の特別養護老人ホームとして舞鶴に設立され、社会福祉法人京都司教区カリタス会の一員として歩み始めました。

七〇年、運営は聖母訪問会に引き継がれ、七五年には定員六十人まで増床する等順調に発展しました。折からの高齢化問題に対応すべく、施設サービスだけではなく、いち早く在宅サービスのモデル事業を開始し、現在の在宅サービスの基礎となる事業を始めました。

九一年、同じカトリック福祉の理念のもとに信徒で構成する新たな法人「真愛の家」を設立し、聖母訪問会より経営を引き継ぎました。

一人ひとりの人生の中に神さまが蒔かれた福音の種とその実りをお年寄りと共に確認しながらカトリック施設として恥じないようこれからも一步ずつ進みたいと念じています。



た。現在では当センターを中心にはデイサービスセンター三カ所、ヘルパーステーション二カ所、在宅介護支援センター二カ所を運営しています。加えて、本年三月、母体の老人ホームの建て替えが完了し、定員百十名短期

入所十五名、痴呆性老人のためのグループホーム九名の新施設が竣工し、市民や教会の方々、運営移管後も暖かく見守って下さる聖母訪問会のご協力のもと、市内でも基幹的な施設となることができました。

一人ひとりの人生の中に神さまが蒔かれた福音の種とその実りをお年寄りと共に確認しながらカトリック施設として恥じないようこれからも一步ずつ進みたいと念じています。

九一年、同じカトリック福祉の理念のもとに信徒で構成する新たな法人「真愛の家」を設立し、聖母訪問会より経営を引き継ぎました。

少子・高齢化に向けて在宅サー

ビス充実のため、九一年、日帰

り通所サービスであるデイサ

ービス、相談・援助のための在宅

介護支援センター、ホームヘル

プサービス事業が開始されまし

お
知
ら
せ

○河原町司教座聖堂献堂三十
五周年・改修感謝ミサ 23日

(祝) 11時

福音セントラーカラ

修道会から

女子パウロ会 章

女子パウロ会

◆養成コース▼祈りII—わたしの
もとに来るが良い。因われから自
由になる— 15日(金)～17日

(日) 場所 唐崎ノートルダム修
道院 指導 松本秀友師、Sr安井
申込み5日(火)まで

◆聖書委員会▼聖書深読9日(土)
10時～16時 奥村一郎師 場所
(昼食代を含む)、持参品 聖書・
筆記用具・ノート(お申込みは5
日前までに)

地 区 協 議 会 か ら

◆ノートルダム唐崎修道院▼召命
黙想会一道を求めて—2日(土)
～3日(日) 対象 青年男女会
費三千円 問合せ 電話077
(579)2884 Sr安井

◆カルメル会修道院▼講演とミサ
(神はわたしの内に、わたしは神
の内に) 17日(日) 13時半 場
所 京都女子カルメル会修道院
(衣笠) 講師 北村善朗師 問合
せ電話075(462)6764

◆京都南部カトリック協議会▼ウ
オーカソン4日(振休)開会式

河原町教会9時半 支援先 ①療
育作業所向島ぐんぐんハウス ②
希望の家 ③ルワンダ内戦による
障害者 ④ペリーのストリートチ
ルドレン▼東プロック「歌と祈り
の集い—平和—」(合同聖歌隊に
よる聖歌) 12月1日(日) 15時

◆信教教育委員会▼祈りの集い—
青年のための聖書深読—23日(祝)
～24日(日) 唐崎ノートルダム祈
りの家 参加費四千五百円 申し

込み Sr安達 電話075(231)2017
◆カトリック正義と平和京都協議
会▼宗教と差別シンボジウム「生
きるために人権」 17日(日) 14時
河原町教会聖堂 谷大二司教

良書紹介

レイモンド・ブラウン

『キリストは近づいている 待

降節の福音 マタイ、ルカ一章』

『降誕物語におけるキリスト
降誕節の福音 マタイ、ルカ二

り、どの様に信仰の所産なのだ
ろうか。

又、福音書それ自体、イエス

様の誕生は、たった一行マタイ
1・23、ルカ2・7で書く。そ

れに又マタイとルカの書き方が
違うのは何故だろう。

又、誰からこの情報を得たの
だろうと考えると、ますます心
細く、いろいろな憶測を立てて
みなければなりません。

一つ是非理解しておかねばな
らないことがあります。

誕生物語の報せは、弟子たち

の宣教の中には出て来ないし、

イエスご自身ですら、ご自分

の誕生物語を語られなかつた。

弟子たちが告げ報せたのは、

あの私たちのため十字架上で死

に、復活されたキリストが今、

私たちに生き、働き、生かして

いて下さることだったの

です。

そこで結論を申します。

イエスの誕生物語は、

は、マタイ一章～二章、ルカ一

章～二章、ヨハネの序言だけに
しか書かれていません。そこで多

くの「福音書外典」や伝説的な

誕生物語、又、いろんなクリス

マス物語が生み出されて来たの

だが、それはどこまで史実であ

◆滋賀カトリック協議会▼例会17

日(日) 13時半 唐崎教会▼びわ

こウオーカソン23日(祝)彦根教

会10時集合 支援先 ひかり福祉

会(長浜市)、止揚学園

◆奈良カトリック協議会▼例会17

日(日) 14時 大和郡山教会▼浦

上切支丹流配者記念ミサ3日(日)

9時 大和郡山教会▼正義と平和

奈良協議会一日研修会4日(振替)

休日) 10時 大和八木教会

◆小教区から

奈良協議会一日研修会4日(振替)

休日) 10時 大和八木教会

◆京都コリアンカトリックセンター

▼韓国聖地巡礼の旅12日(火)~

15日(金)

◆大和郡山教会▼バザー24日(日)

宮下正子(学研幼稚教室マネージャー)

なもの」19日(火)9時半 講師

室「死者の日」のためのミサ(8

人の歌手によるアカペラ・アンサ

ンブル、音楽監督 花井哲郎)5

日(火) 19時 河原町教会 前壳

三千円 問合せ 電話・FAX 0

14時 カソン16日(土)

◆セントヨゼフ女子学園▼ウォーリ

座 毎週金曜日(第5はお休み)

9時半、月曜日(原則第2・4)

19時 講師 安藤敬子(スヴェー

ル愛徳会)▼日曜巡礼の旅「伏見

京阪中書島駅改札口 三俣俊二先

生▼子育て講演会「子育てに大切

つことが待降節の意味合いだと

理解されることは多いが、それ

だけでは十分ではないことが察

せられる。そういうえば四つの福音書のうちイエスの誕生に関する直接的な記事は、マタイとル

イエス誕生がただ「めでたい」という感情に終わってはならな

いということである。むしろイ

エスの誕生によって表されてい

る事柄は何かということ、そし

てそれを待つことの重要性を

うけとめることである。この

ことは、旧約の民が待ちわび

ていたことと「今」のわたしたちが待ちわびていることに関連

している。

カだけで、ヨハネにおいては「ことば」(ロゴス)の先在として描かれ、マルコではイエスの登場はその洗礼の場面からである。イエス誕生への関心は福音書においては半々だといえる。

待降節

(典礼委員会)

『典礼暦年と典礼暦に関する一般原則』(カトリック中央協議会)39には次のようにある。「待降節は二重の特質をもつ。それはまず、神の子の第一の来臨を追憶する降誕の祭典のための準備期間であり、また同時に、その追憶を通して、終末におけるキリストの第二の来臨の待望へと心を向ける期間である。この二つの理由から、待降節は愛と喜びに包まれた待望のときであることが明らかになってくる」

降誕祭つまりクリスマスを待

◆糠みその会▼例会28日(木)19時45分九条教会ホール

◆「一万匹の蟻運動」基金報告

累計 三三、一三〇、八二〇円

◆教育関係施設から

◆諸施設・諸活動から

◆JOC▼集会9日(土)17時

30代の集まり9日(土)19時半

滋賀働く人の家(大津教会裏)問

合せ090(8207)1831

◆京都キリストン研究会▼定例会

24日(日) 河原町会館六階ホール

◆コーロチエステ▼練習第2、

第4、第5木曜日10時~12時

河原町会館六階ホール

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟の家

会16日(土)13時半フランシスコの家

◆聖ビンセンシオ・ア・パウロ会

▼例会(河原町協議会)10日(日)

13時半 河原町教会▼京都中央理

事会24日(日)13時半 河原町教

会

ペラ京都公演「15世紀フランス王室『死者の日』」のためのミサ(8

人の歌手によるアカペラ・アンサ

ンブル、音楽監督 花井哲郎)5

日(火) 19時 河原町教会 前壳

三千円 問合せ 電話・FAX 0

◆京都カトリック混声合唱團▼練

習日10日(日)14時 河原町会館

六階和室、23日(祝)19時 河原

町会館六階

◆レジオ・マリエ▼コミチウム10

日(日) 13時半 河原町会館六階

書においては半々だといえる。

大塚司教の

11月のスケジュール

2日(土)伊勢・マリア保育園訪問	祝賀会12時半
3日(日)衣笠墓地墓参	信18時
4日(月)大本教第2回世界宗教者 祈りとフォーラム	研修会
5日(火)青少年委員会14時	26日(火)東京カトリック神学院
6日(水)中央協機構改革委員会15 時	27日(木)神学校常任司教委員会9 時
7日(木)中央協常任司教委員会10 時	28日(木)司祭全体集会10時半
新聞チーム会議14時	司祭評議会15時
9日(土)精華聖マリア幼稚園創立 50周年	30日(土)教区会計担当者説明会
10日(日)滋賀地区・湖西ブロック 共同宣教司牧 司教訪問	本部事務局から
12日(火)～14日(木)日韓司教交 流会(韓国)	司教座聖堂三十五周年大改 修工事友情献金は、九月三十 日現在三、四五、六〇九円で す。ご協力ありがとうございます。 引き続き、よろしくご 協力お願い致します。
17日(日)三重地区・中勢ブロック 共同宣教司牧 司教訪問	WYDのテーマは「あなたが たは地の塩世の光」です。この テーマに沿って、「司教のカ テケージスが行われました。私 はこのテーマについて参加する までは理解が出来ませんでした。 でも、司教様たちの話を聞くう ちに、徐々に理解することが出 来ました。その中でいわれた言 葉が私の中に強く残っています。 それは「洗礼を通して、地の塩 となつて生きること、上からの 恵み、私の力ではなく、上から にお願いします。
19日(火)大阪合同顧問会15時	1月号に二〇〇三年の年間 予定を掲載します。締切11月 20日(水)教区国際協力委員会拡大 担当者会議14時
21日(木)司教顧問会・責任役員会 10時	報宛」と明記して、FAX0 75(211)3041または henshu@kyoto.catholic.jpにお願いします。
司祭評議会常任委員会14 時	

教区司祭追悼ミサ 16時半
サ 11時 祝賀会12時半
24日(日)ラテンアメリカ共同体堅
信18時

25日(月)～26日(火)青少年委員会
研修会

26日(火)東京カトリック神学院

27日(木)神学校常任司教委員会9
時

28日(木)司祭全体集会10時半

司祭評議会15時

30日(土)教区会計担当者説明会

本部事務局から

司教座聖堂三十五周年大改
修工事友情献金は、九月三十
日現在三、四五、六〇九円で
す。ご協力ありがとうございます。
引き続き、よろしくご
協力お願い致します。

WYDのテーマは「あなたが
たは地の塩世の光」です。この
テーマに沿って、「司教のカ
テケージスが行われました。私
はこのテーマについて参加する
までは理解が出来ませんでした。
でも、司教様たちの話を聞くう
ちに、徐々に理解することが出
来ました。その中でいわれた言
葉が私の中に強く残っています。
それは「洗礼を通して、地の塩
となつて生きること、上からの
恵み、私の力ではなく、上から
にお願いします。

WYDに参加して

土岐仁美

七月二十一日～八月一日まで、
ワールドユースデイ(WYD)は
世界青年の日)トロント大会に
行ってきました。大会期間中は、
百七十カ国から五十万人以上が
集まり、日本の巡礼団からは八
四人、教区からは十一名の青年
が参加しました。

大会期間中のプログラムは、
三司教(溝部司教・大塚司教・
松浦司教)のカテナージスとミ
サが三日間、アジアの青年との
交わり、十字架の道行、教皇様
の夕べの祈り、ミサとたくさん
ありました。また、日中の暑さ
と、世界の青年のパワーには驚
きました。

私はこのWYDで、教区を越
えて同じ信仰を持った人の出
会いがとても嬉しかったです。
た見つめ直すことが出来ました。

私はこのWYDで、教区を越
えて同じ信仰を持った人の出
会いがとても嬉しかったです。
た見つめ直すことが出来ました。
今まで、大きな出会いがなかっ
た私はこの出会いを与えて下さ
たのだと思います。洗礼を受け
てもうすぐ八年になりますが、
今この地にいなければWYDへ
行くことがなかつたかもしれません。
私にとってこの体験は非
常に大切なものです。そして、
超教区の青年との交わりがいか
に大切であるかが実感でき、今
はとても感謝の気持ちで一杯で
ます。

ありがとうございました！ 私をWYDへ
送り出してくれたみなさん。
最後に教皇様の言葉をお送り
します。

「あなたがたは地の塩世の
力で、水によって変えられる」・
「キリスト共に世の光となつて
輝き歩こう」です。また、松浦
司教のカテナージスでは、神と
の和解、赦しについて考えさせ
られました。私は、この時に自
分自身の信仰について考え、ま
た見つめ直すことが出来ました。

私はこのWYDで、教区を越
えて同じ信仰を持った人の出
会いがとても嬉しかったです。
た見つめ直すことが出来ました。

ありがとうございました！ 私をWYDへ
送り出してくれたみなさん。
最後に教皇様の言葉をお送り
します。

「あなたがたは地の塩世の